**2015.5.16　　講演会　さわやか福祉財団　鶴山芳子氏**

みんなで参加する助け合いの地域づくり

アンケート　　　参加107名

１　講演で心に響いたこと

・支援を受ける立場がいつの間にか参加する立場になっていると言うこと、自分を見ていても実感したので、納得できた。

・全国的にささえあいの方向に取り組んでいると言うこと。

・受けることでなく助け合うことの意識を感じた。

やってあげると思う上から目線ではなく、自分の喜びとして活動することが重要である。

・各地の実践

・カード遊びで、今からどんな活動をしていけばいいか分かった。

・これからの高齢化に向けて、人の迷惑をかけずに元気で人のために何ができるかを考えていきたいと思う。

・助け合いの大切さを痛感した。

自分でできることは提供して、できないことを頼む等、お互い助け合うことが大切だと感じた。

・協力できることがあったら、協力することが大切であること。

全国で行われているささえあいの実態がよくわかった。このような活動が活発になれば良いと思う。

・地域でたくさんボランティアの気持ちがある方が大勢いらっしゃってありがたい。

・この地域で行われていることが、全国のモデルの例に引けを取らないと感じた。

・助け合い。

・出会いーふれあい―つながりと言う助け合いの効果が素晴らしいと思った。

・他県でいろいろな会が多くてうらやましく思う。

・給付から助け合いへ　　行政が住民にどれだけ任せることができるか。

・一歩踏み込んで行かないと進まない。危機感がないことが問題。

表面的には、何ら反対すべきことはないが、心に響くこともなかった。どうしてだろうか？

・介護保険改正の件を聞きに来たが・・・

ゲームみたいなやつ「自分がしてほしいこと」のカードを3枚とってとか・・・これが一番楽しく自分のことがよくわかった。

・ゲームをやって楽しかった。「助け合うことは楽しいこと」だと感じた。

・これからはお互いの助け合いが必要だと思った。

・いいお話だった。 中間のゲームの時にはとても盛り上がり、和気藹々としてとてもよかった。 それぞれが出せる力をだしあう、給付から助け合いへと向かう地域作り、やりましょう。鶴山さんの淀みない お話はお見事。

・助け合いの気持ちで取り組むことの大切さ。気持ちがなければ何もはじまらないことを痛切に感じた。

・少しは社協の催しに参加協力しなきゃと思って、会場に行ってみた。たくさんの人なので、来なくて良かったなと思った。しかし講演を聞いて、ゲームをしていると、とても自分のために良かった。ゲームのように助け合いができるなら、私たち夫婦も何かできるかな、これからだなと思った。ああいう講演会を開くことがすごい。

・自宅を開放して集まりをやりたいとの夢をもっていたが、今日の話を聞いて、実施への意欲が増した。

２　講演会で話された地域支援事業で、この地域で実施するとよいと思われるものは何か

地域移送　買い物　通院支援（実際困っている方が多く今後も増加するため）

食事作り　食材の配達や配食（安否確認を兼ねる）

ほとんど実施されている。

現在進められている事業内容を広げていくことが大切だ。

すでに行われているボランティアをもっと地域に根づかせること。多くの人に知ってもらうこと。

障がい者の支援　特に予防

住民が来やすく集まりふれあう場所の提供　　気楽に触れ合える場所作り　居場所作り　ささえあいの家のような居場所を増やす。もう少し細かな集会場

ささえあいの家のようなのがもっとあったらいい。

すでに「ささえあいの家」で活躍がなされている。

ここには「ささえあいの家」と言う触れ合いの場が有り、恵まれたまちであると思う。家を提供してくれた人に感謝。　ささえあいの家を大いに利用したい。

すでにはじまっている事業の実績を積み上げること

茶店を増やす　カフェ　昔の井戸端会議的なつながりをつくりたい。

町内ごとの関係を深め、顔見知りになれるような集まりを行う。

昼食会等が松が丘地区でできるようになればうれしい。

生活支援ボランティア　介護者支援

軽度認知症であれば、周囲のみなさんが承知して、仲間として付き合うこと

誰もが思っていることだが、地域に散らばっているゴミなど、気がついた人が片づける。

ボランティアとは何か？常に自問しているが、福祉ネットワークも作られつつあるが、形だけ一部の人が「私たちは正しいことをしている」ご立派だとは思うが何か違和感を覚える。

いろいろな地域から来ているので合わせるのが難しい。

福祉のニーズとマッチング

自治会の役割が今後ますます要求される。

３　講演にあった地域支援事業で、自身も参加してみようと思われるものは何か

近隣ケアグループ

何と言っても人の輪が大事で、より集うと言う所にその輪が広がると思う。

参加している

参加の意思はあるが、高齢で足手まといになる可能性大です。

高齢になり手伝いがあまりできないけれど参加したい。

着付け　食事作り　チョコットボランティア　ボランティア　身近な人の生活支援

弱者の買い物支援　自分は90歳だがまだ車に乗れる。このまちは坂の街、買い物が不便　　生活支援ボランティア　ささえあいの家のボランティア

自分の得意分野を。

ちょっとしたことを持ち寄って話し合いをする

見守り、近所の人との関係を深める

「自分の実家」構想は良いと思う。ムリなく自然の流れの中での交流が理想。

４　生活支援ボランティア活動を実施していることを知っていたか

知っていた　　　　　　　　　９７％

ボランティア登録している　　１８％

初めて知った　　　　　　　　　２％

５　生活支援ボランティア活動について改善した方が良いと思われることは何か

性格的に助けてと言えない人への対応は？誰もが助けてと言えるようになれば良いと思う。

みなさん頑張ってやっておられるので、現在改善するとよいと思うことはない。

みんなに生活支援ボランティア活動を周知する

とても良い取り組みがあるので、より参加しやすいようにしていってほしい。新しく仲間になりたいと思ってもやはり途中からは入りにくい感じがある。

もっと自治会が参加してほしい。

日ごろ住民として、人との出会いを大切にして暮らしたい。

まず実績を積み上げていくことが必要です。

ボランティアの数はもちろん大事だが、なんといってもそれをリードする指導者の役割がますます重要と思っている。

個人個人がおりにふれ会話に出していくこと。

地域のボランティア活動に、一住民として協力したいと思っても、なかなかその中に入っていくきっかけを作ることができない。「ささえあいの家」についてもまだまだ敷居が高い気がする。

スタート間もないので落ち着いて様子を見ればよいと思う。

もっとみなさんに周知すること。

八木山校区に住んでいる人全員が生活支援ボランティア活動を知るようにしていければよい。

生活支援ボランティアメンバーに限らず、何か困っている人があれば、直ちに適当と思われる人を選んで連絡を取りあい、至急のことにも対応できるようにしてください。

松が丘・つつじが丘合同で運営していく。

どっちかと言えばよくやっている方だと思う。

近所で仲良く暮らしているので、一人でも安心して暮らしている。

これからの活動がどこまでやれるか。

ささえあいも良いが、やはり自分が努力することが一番だと思う。

高齢者を中心にしているが、生活困窮者、障害者、子育て要支援者の支援も広げて行くことを同時進行してほしい。

出産した家族も支援を求めている。高齢でなくとも、病気がちあるいはけが・病気になった時支援がほしいと思う。支援対象者を高齢者に限定しない方が良い。

あまり堅苦しいルールで縛らないことも必要だと思う。

生活支援ボランティア活動は、一人一人事情の違う人に対応することなので、一律の決まりより、融通性をもった対応が必要だ。

参加することが億劫である。

つつじが丘は遠くて行けず、松が丘コミュニティでももっといろんなことに参加できればうれしい。